

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第30週 (7/25-7/31) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		30週	29週	28週	27週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	16	18
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	28	28	26	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	7/25-7/31	7/18-7/24	7/11-7/17	7/4-7/10	7/18-7/24
			30週	29週	28週	27週	29週
小児科	RSウイルス感染症		4	1	2	1	21
	咽頭結膜熱		6	1	7	8	42
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		37	44	53	66	362
	感染性胃腸炎		72	78	102	95	392
	水痘		5	7	14	11	50
	手足口病	○	67	34	22	23	276
	伝染性紅斑	○	9	6	5	6	24
	突発性発しん		13	17	13	17	54
	百日咳		0	0	1	0	2
	ヘルパンギーナ	○	100	77	72	51	657
	流行性耳下腺炎	○	22	6	8	13	123
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	1	0	1
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		6	5	5	13	31
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	5
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	画像診断	結核	女性	10歳代	IGRA検査等
結核	男性	50歳代	IGRA検査	結核	女性	20歳代	IGRA検査
結核	男性	60歳代	IGRA検査	結核	女性	40歳代	IGRA検査
結核	男性	60歳代	画像診断等	結核	女性	50歳代	IGRA検査
結核	男性	70歳代	胸水ADA値の上昇	A型肝炎	男性	30歳代	血清IgM抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出	レジオネラ症	男性	70歳代	病原体抗原の検出

\*第30週は、結核10件(153)、A型肝炎1件(3)、レジオネラ症1件(6)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

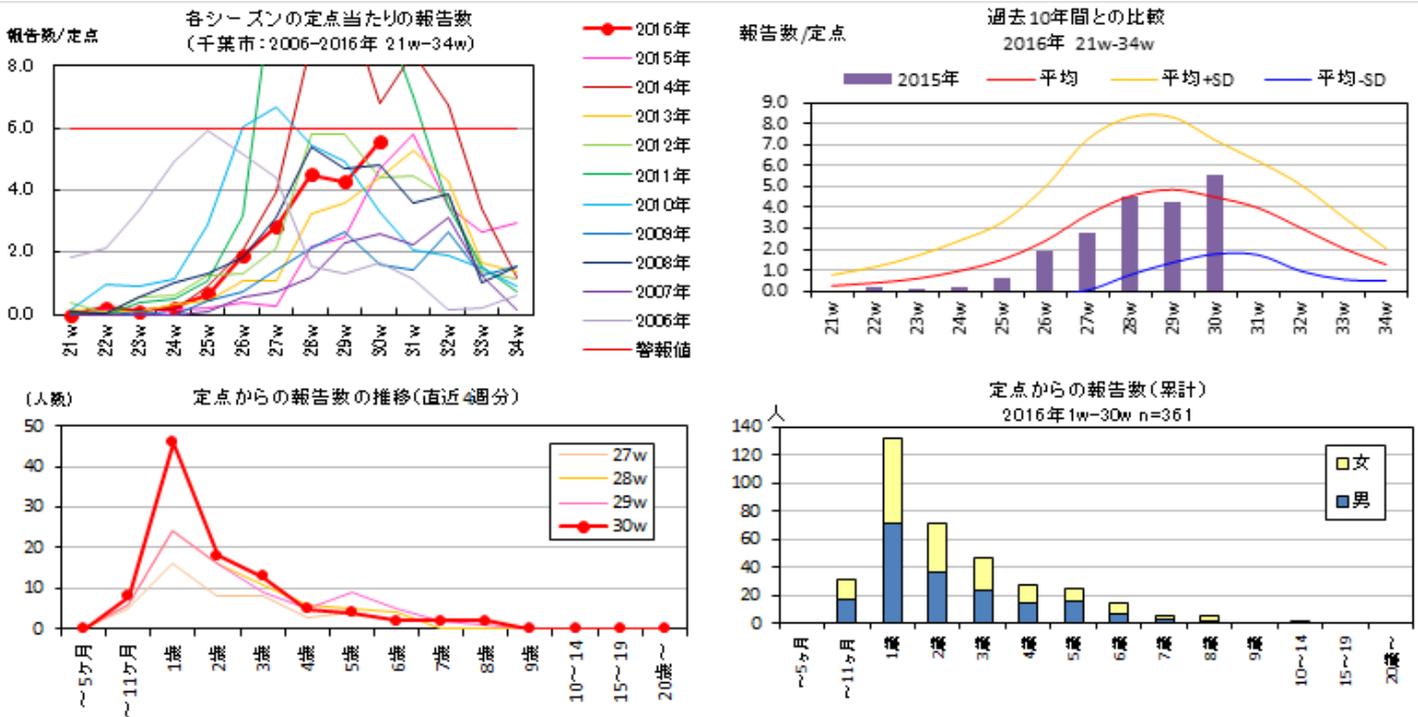
### 定点当たり報告数 第30週のコメント

- <手足口病> 前週から増加し3.72となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。
- <伝染性紅斑> 前週から増加し0.50となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均並み。
- <ヘルパンギーナ> 前週から再び増加し5.56となった。過去10年の同時期と比べると多め。
- <流行性耳下腺炎> 前週から増加し1.22となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

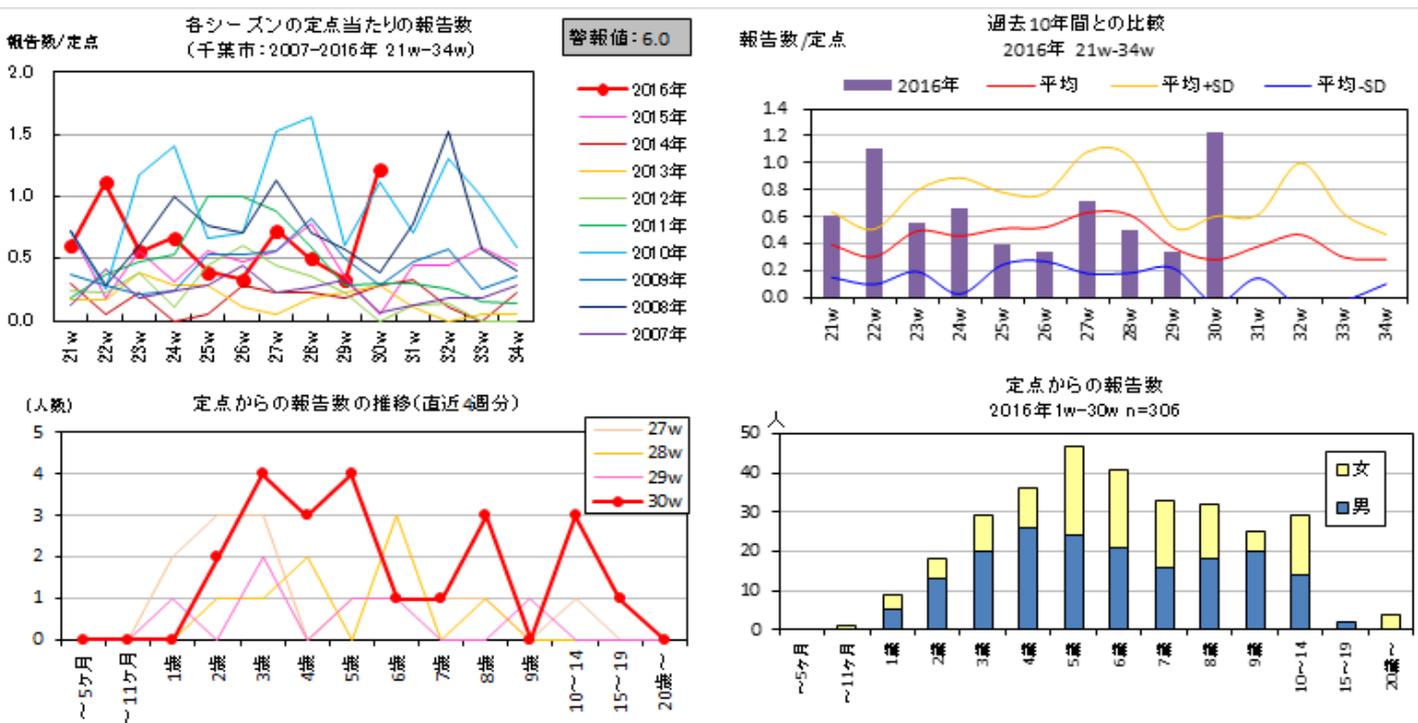
＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの第29週は過去9年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、新潟県、栃木県、三重県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第30週は前週より再び増加し5.56となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、緑区(9.25/定点)で流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を上回り最多となっている他、若葉区(8.5/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回っており、また稲毛区(6.0/定点)では流行発生警報開始基準値に達しました。いずれの区も1歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第30週までの累積報告数(n=361)によると、性別では男性が53.5%(193名)、女性が46.5%(168名)で、年齢階級別では1歳(36.6%:132名)、2歳(19.9%:72名)、3歳(13.0%:47名)の順に多くなっています。



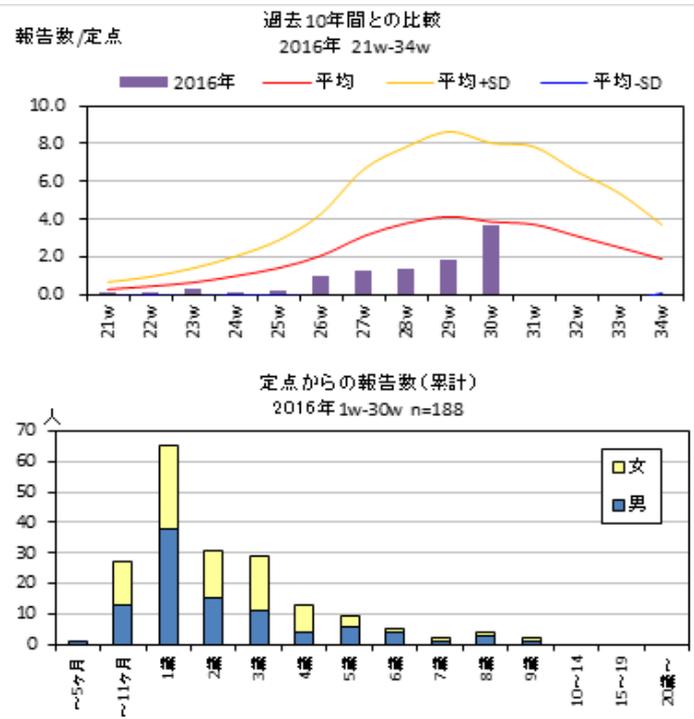
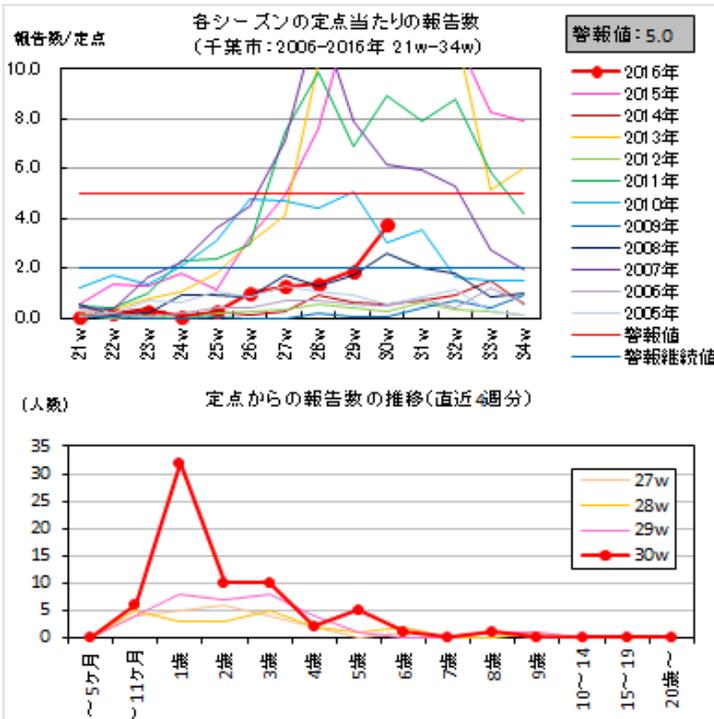
＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの第29週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、新潟県、佐賀県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉市の第30週は前週より増加し1.22となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区(3.5/定点)で流行発生注意報基準値(3.0/定点)を上回り最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第30週までの累積報告数(n=306)によると、性別では男性が58.5%(179名)、女性が41.5%(127名)で、年齢階級別では5歳(15.4%:47名)、6歳(13.4%:41名)、4歳(11.8%:36名)の順に多くなっています。



## <手足口病>

全国レベルの第29週は過去9年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、鹿児島県、沖縄県、千葉県の順に多く報告されています。千葉市では第26週から連続して増加しており、第30週は前週より増加し3.72となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は、美浜区(7.75/定点)で流行発生注意報基準値(5.0/定点)を上回り最多となっている他、稲毛区(7.33/定点)でも流行発生注意報基準値を上回りました。いずれの区も1歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第30週までの累積報告数(n=188)によると、性別では男性が51.6%(97名)、女性が48.4%(91名)で、年齢階級別では1歳(34.6%:65名)、2歳(16.5%:31名)、3歳(15.4%:29名)の順に多くなっています。



## <伝染性紅斑>

全国レベルの第29週は過去9年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、宮崎県、奈良県、栃木県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べて少なめとなっています。千葉市の第30週は前週より増加し0.50となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。区別の発生状況は、若葉区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第30週までの累積報告数(n=200)によると、性別では男性が56.5%(113名)、女性が43.5%(87名)で、年齢階級別では5歳(15.5%:31名)、4歳(13.5%:27名)、3歳(12.0%:24名)の順に多くなっています。

